

## ふるさと財団「地域再生マネージャー」情報

1. 基本情報			
ふりがな	やつ たかひろ		
氏名	谷津 孝啓		
所属	株式会社IRODORI		
役職	代表取締役		
活動エリア	全国		
連絡先	住所	〒	174-0046 東京都文京区目白台1丁目24-8
	電話番号		
	メールアドレス	<a href="mailto:info@irodori-group.jp">info@irodori-group.jp</a>	
キャッチコピー	誰もが持っている自分にしかない色を活かした多様な挑戦ができるまちをつくる		
自己PR	<p>地域課題の解決には、地域で活動する人材の育成が不可欠と考え、政策や事業の推進と並行して、人材育成の仕組みを組み込んだ取り組みを実践しています。</p> <p>茨城県銚田市では地域の若者を事業に巻き込み、彼ら自身の課題意識を引き出しながら、中間支援組織の立ち上げを促進。このモデルを茨城県事業として他地域にも展開しています。島根県奥出雲町では「企業版関係人口創出」をテーマに、企業と行政が連携しやすい仕組みを構築。企業が関与しやすい事業内容を整理し、行政と企業の双方にメリットのある関係を形成しています。また、千葉県柏市では地域健康福祉計画策定において、福祉関係者がロジックモデルやセオリーオブチェンジを理解し、業務に活かせるよう成長プロセスを導入。2年間で人材育成と計画の質向上を実現させました。</p> <p>このように、政策や事業の推進において、関係者の成長を促す仕組みを取り入れることで、持続的かつ効果的な事業成果を生み出すことに注力しています。</p>		
関連ホームページ	名称	アドレス	
	株式会社IRODORIホームページ	<a href="https://irodori-group.jp/">https://irodori-group.jp/</a>	
	ワガママLabホームページ	<a href="https://wagamamalab.jp/">https://wagamamalab.jp/</a>	
	ローカル・ダイアログホームページ	<a href="https://local-dialogue.com/">https://local-dialogue.com/</a>	
	note	<a href="https://note.com/peacevatsu">https://note.com/peacevatsu</a>	
2. 略歴・受賞歴			
略歴・受賞歴	<p>2006年からベンチャー企業にて新規事業開発に挑戦し、女性活躍を支援する求人メディアの立ち上げなど社会課題解決につながる事業を手掛ける。</p> <p>2023年に東京都文京区に大正時代に建てられた築100年の町家を改装してコミュニティスペース「ワガママ町家」を立ち上げ、都市部で活動する地域課題解決に取り組む企業と自治体が連携する仕組みを構築し、地方自治体の官民連携コーディネーターとして活動中。</p> <p>国や自治体の政策プロジェクトを多数手掛けたとともに、企業のデジタル関連領域を中心とした戦略構築や事業展開、研修講師などを務める。地域で暮らす住民と行政が対話の場を通じて政策策定を行うカードゲームLocal Dialogueの開発者としても活動しており、行政の政策策定支援などを手掛ける。</p> <p>また、マサチューセッツ工科大学が提供する誰もがスマートフォンアプリを開発できるソフトウェア「MIT AppInventor」を活用した若者向けのデジタル人材育成プログラム「ワガママLab」を開発し、小学生・中学生・高校生・大学生が地域の課題をデジタルを活用して解決するプロジェクトを全国で展開中。</p> <p>宮城県仙台市出身                  ◆令和3年度 茨城県銚田市官民連携アドバイザー                  ◆令和4年度 島根県官民連携コーディネーター                  ◆令和5年度 群馬県嬬恋村官民連携コーディネーター</p>		
3. 取組分野			
観光	( )		
● 移住・定住・関係人口	(企業版関係人口創出(企業が地域と連携し、課題解決を通じて関わりを深める仕組み。)、首都圏の大学生と連携した地域課題解決フィールドワーク。)		
農林水産業	( )		
● 起業支援	(地域おこし協力隊を対象とした起業支援。着任した協力隊員の経験を活かし、地域との関係構築から新たな活動創出を通じた起業のトータルコーディネート。地域で活動する若者を対象にした中間支援組織の設立支援。)		
まちなか再生	( )		
集落再生	( )		
環境	( )		
● その他	(地元の中学校や高校の総合的な探究の時間を活用したデジタルを活用した地域課題解決プログラムの推進。マサチューセッツ工科大学が提供する環境MITAppInventorを活用して中学生が地域課題を解決するアプリを開発して社会実装につなげていきます。)		



4. ふるさと財団での実績

外部専門家 (活用助成)	◆2022年度～24年度 茨城県銚田市 「産学官が連携した『まちの未来を創るチャレンジプロジェクト』」
-----------------	---

5. 取組内容・実績

取組内容・実績	<p>【取組事例①】</p> <p>(1)事業名 : 産学官が連携した「まちの未来を創るチャレンジプロジェクト」  (2)対象地 : 茨城県銚田市  (3)事業目的: 銚田市では、「しごと」を生み出し「ひと」を呼び込む、または「ひと」が「しごと」を生み出すという好循環を創出し、それを支える「まち」づくりを目指し、銚田市総合戦略を策定している。この事業は、同戦略に掲げられた「農業を中心に産業の活性化を図り、安定した雇用を創出する」及び「ひとの地域内への還流と新たな人の流れを創造する」という基本目標の実現を目的とする。具体的には、意欲ある若者を支援し、地域雇用の創出や地域活力を高める新産業の創出を促進するとともに、幼少期からの教育プログラムの充実を図り、地域への愛着を育みながら成長し、持続可能な地域づくりに貢献する人材の育成を進めることを目的とした。</p> <p>(4)事業内容: 本事業では、地域プロデューサーの伴走支援を実施し、銚田市内の学校や市民の事業推進を支援した。また、ワガママ実践講座を実施し、市民主体の継続的な仕組みづくりを強化した。さらに、ほこたふチャーセンターを運営し、市民会議の定期開催や中高生の地域課題解決を支援した。農家連携によるイノベーションプログラムでは、企業版関係人口の創出を推進した。加えて、中間支援組織の伴走支援を実施し、行政と市民をつなぎ、地域活動を促進した。</p> <p>(5)事業による成果:  ・市民が中心となり中間支援組織が設立された。  ・企業版関係人口創出の仕組みを取り入れ「農家連携プログラム(地域課題解決ハッカソン)」を実施し、継続的に企業が関わる仕組みを構築した。  ・市内にある高等学校と東京学芸大学の連携をコーディネートし、生徒たちが毎年Tokyo Education Showで成果をプレゼンする仕組みを構築した。  ・マサチューセッツ工科大学が提供するMIT App Inventorを使い、総合的な探究の時間で生徒たちが地域課題を解決するアプリを開発する仕組みを構築した。</p>
	<p>【取組事例②】</p> <p>(1)事業名 : ○○○○○○○○○○○○○○○○  (2)対象地 : ○○県 ○○町  (3)事業目的:  (4)事業内容:  (5)事業による成果:</p>
	<p>【取組事例③】</p> <p>(1)事業名 : ○○○○○○○○○○○○○○○○  (2)対象地 : ○○県 ○○市  (3)事業目的:  (4)事業内容:  (5)事業による成果:</p>
	<p>【取組事例④】</p> <p>(1)事業名 : ○○○○○○○○○○○○○○○○  (2)対象地 : ○○県 ○○村  (3)事業目的:  (4)事業内容:  (5)事業による成果:</p>
	※上記以外の取組内容・実績